

湿地付近の浸水対策

○整備の方針

- ・パーククラブと府ができるだけ一緒に設計・施工を行い、けっして急がず、ゆっくりと整備を進めていく。
- ・環境に配慮した園路整備を検討し、施設の設置は必要最低限とする。
- ・一般来園者による利用に向けて、安全性を向上する。

別添資料①

案	案1:木道(再生木材)	案2:土留め(再生プラスチック)	案3:土留め(竹杭)	案4:土留め(じゃかご)	案5:土留め(土のう)
	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地の地盤に対応した基礎を使用し、再生木材の床板を敷く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土道には池周辺の現場土を使用し、園路の両側に土留めを設置する。 ・資材は湿地の地盤に耐え、傷みにくい再生プラスチックを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹杭と、束ねた竹で土留めをつくり、土道を形成する。 ・木杭によって、竹柵の強度を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園路の両側にじゃかごを設置し、盛土をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園路の両側に石混じりの土のうを設置し、盛土する。
景観面 (景観への影響)	天然木材に近い風合い。 △	・周囲に溶け込みやすい色と素材を使用している。 △	・自然環境に調和する。 ○	・自然景観に調和する。 ○	・自然景観に調和する。 ○
環境面 (環境への影響)	資材には再生プラスチックと廃木粉を使用しており、環境への影響が少ない。 ○	・特に問題なし。 ○	・特に問題なし。 ○	・特に問題なし。 ○	・特に問題なし。 ○
安全性	・滑り止め加工が施されている。 ○	・特に問題なし。 ○	・特に問題なし。 ○	・足を踏み入れない対策が必要 △	・特に問題なし。 ○
施工面 (パーククラブによる施工の可能性)	・床板の設置は人力施工が可能(専門業者の施工が不可欠)。 ・基礎の設置は機械施工が必要(専門家による作業)。 ×	・土留め資材は府が購入し、設置・盛土は人力施工が可能。 ○	・木杭は府が購入し、設置・盛土は人力施工が可能。 ○	・じゃかご設置、盛土は人力施工が可能。 ・じゃかご材は機械運搬。 △	・土のう設置と盛土は人力施工が可能。 ・敷石は機械運搬。 △
整備費	・NETIS製品であるため高価である。 ×	・資材費は比較的高価である。 ×	・資材の竹は現地で調達することができる。 ○	・資材はメーカーから購入する。 △	・資材はメーカーから購入する。 △
メンテナンス	・樹脂製のため耐久性が高い。 ○	・樹脂製のため耐久性が高い。 ○	・現地で間伐後、放置された竹のため、定期的な取り換えが必要である。 △	・じゃかごの鉄線には、溶融亜鉛めっきが使用されているのため耐久性が高い。 ○	・土のうは劣化が早いと考えられる。 △
総合評価	×	△	○	△	△

※今回の整備は、試行として暫定的な利用を想定しているため、転落防止柵は設置しない。

眺望スポットの整備案

【入り江付近の眺望スポット】

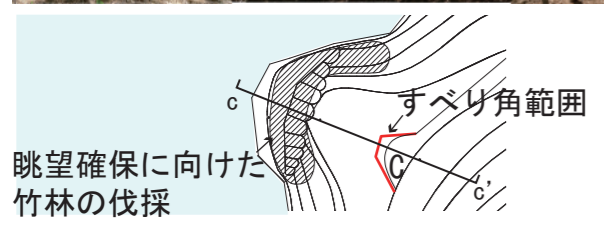


- 〈眺望スポットA・B共通〉
- ・入り江にはナニワトンボの生息が確認されており、秋にはトンボが飛び交う姿を眺めることができると考えられる。
 - ・ヤマモモの傍で休むことができる。

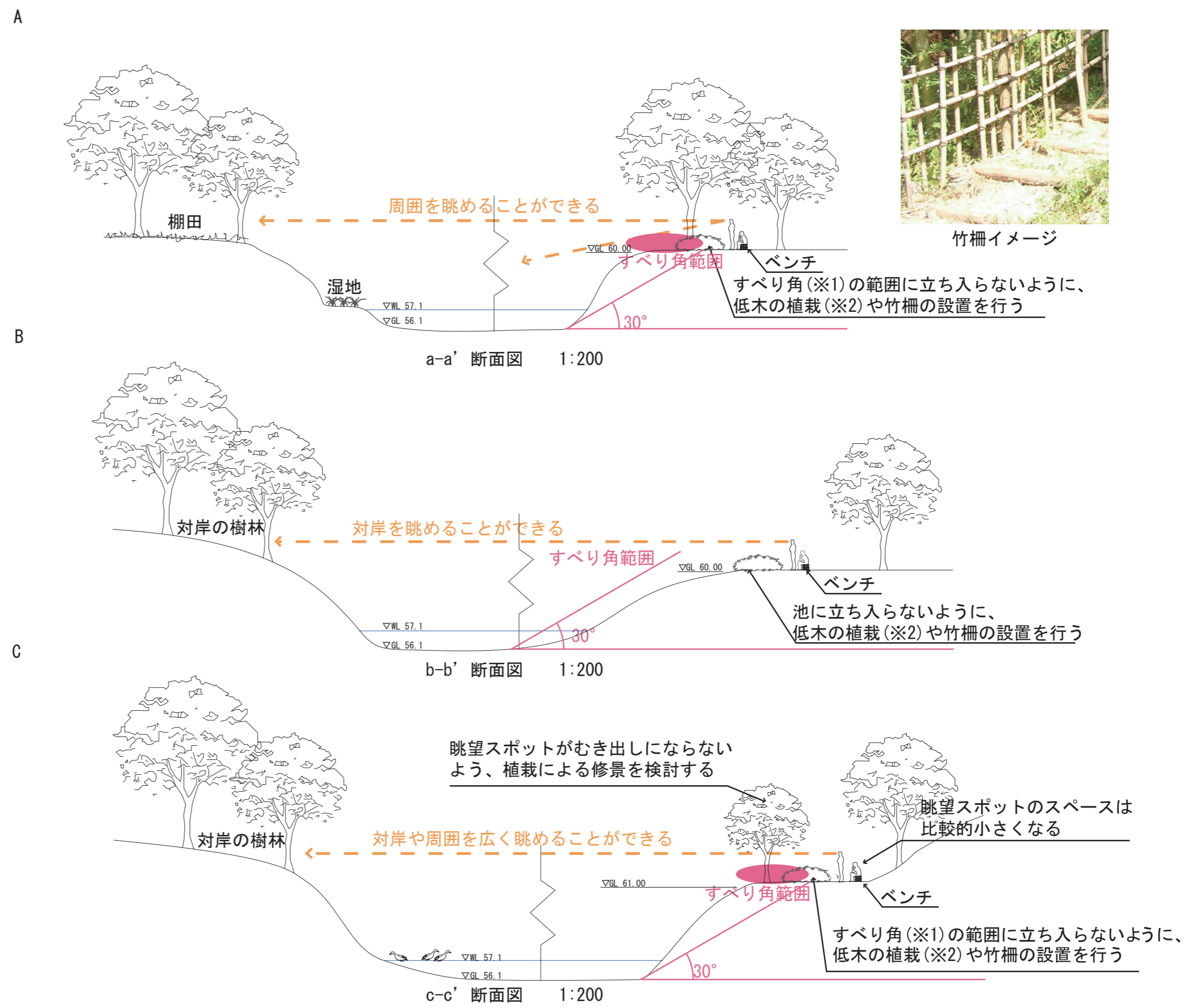
- 〈眺望スポットA〉
- ・入り江や湿地の景色が楽しめ、周辺環境の魅力を感じることができる。

- 〈眺望スポットB〉
- ・池の水面や、対岸の木々を眺めることができる。

【向井池東側園路の入口付近の眺望スポット】



- 〈眺望スポットC〉
- ・向井池東側園路の玄関口となる眺望スポットで、森の入口にあるため気軽に立ち寄ることができる。
 - ・向井池を見渡せる開けた場所である。
 - ・眺望スポットがむき出しにならないよう、植樹を行うことを検討する。



竹柵イメージ

※1 すべり角は、『道路土工 擁壁工事指針 社団法人日本道路協会 (平成11年)』に基づき30度(砂質土)とする。
 ※2 低木は人止めのため常緑とし、向井池周辺区域の在来で地域性のある樹種とする。